

(個別研修) 鳥居いづみ

研修テーマ：知的障害を持つ人が地域で暮らすための環境整備とサービス提供について －サービス提供分野の垣根を超えた連携、地域とのつながり－

研修地：ドイツ ヘッセン州 ヘルプシュタイン・シュトックハウゼン、アルテンシュリーフ

研修施設：Gemeinschaft Altenschlirf (キャンプヒル共同体、障害者支援団体)

研修日：5月15日～6月20日

【キャンプヒル運動について】

キャンプヒルは、ルドルフ・シュタイナーの考える人智学（人間が人間であること）に基づき、オーストリア人医師カール・ケニッヒがスコットランドで始めた、障害の有無にかかわらず人々が共同で暮らし、働いている共同体である。その理念は「全ての人間が持っている、身体特性から独立した健康な心理面を育む」というものである。

【研修先について】

Gemeinschaft Altenschlirf はドイツ中部のヘッセン州フルダの西約 20 km に位置する、木組みの家が大変美しい、酪農が盛んな地域にある。2022 年に設立 40 年を迎えたキャンプヒル共同体で、作業場所は Altenschlirf 村と Stockhausen 村に 12、住居はこの二つの村の間にある Schlechtenwegen 村も加えた 3 村に 15 ある。およそ 340 人が所属しているが、うち 140 人は障害のある人で、2 人が自宅、6 人が他の障害者施設で暮らしている。それ以外の人はみな共同体の住居に住んでいる。



Stockhausen 城を住居として使用している



城の付属施設である馬小屋等を改築している



城の庭園は誰もが散策できる観光スポット



上の写真を内側から見た様子。作業室と事務所

【織物部門 (Wollwerkstatt)】(5月16日～5月20日)

作業内容：機織り、裂き織、再生紙づくり

商品内容：絨毯・椅子用クッション等（羊毛）、バッグ・ポーチ（木綿糸）、マット（裂き織）、
飾り（窓用）、再生紙カード

設備等：絨毯の織機7台（大4、小3、フィンランド製）、機織り機7台（スウェーデン製）
染色用鍋、脱水機、シンク（大2台）、作業台（水気のある物用）他



絨毯の織機（大）縦糸に絡め、結び付けていく



裂き織機 古シーツを染色して使用



商品コーナー 誰でも自由に来店して購入できる



染色した糸を巻く作業

- 糸巻、紙ちぎりは織り作業が難しい人（日本では生活介護相当）が携わっていた。卵パック使用。
- 機織り、裂き織りの原理は日本と同じだが、自施設はさをり織りで、足踏み式（ペダル2本）の織機を採用しているのに対し、こちらでは足踏み式（ペダルが2～6本）とレバー式（織機の上部にレバーがあり、ペダルと同じ役割がある）があった。左右の耳を全員がきれいに織ることができた。よれや縮みなくきれいな織りだった。